

テクニクスリスニングルーム試聴記(2018.4.20)

Technics ブランドのリファレンスクラス ダイレクトドライブターンテーブルシステム SL-1000R とダイレクトドライブターンテーブル SP-10R 発売のアナウンスがありました。

<http://jp.technics.com/products/1000r/>

テクニクスリスニングルームに問い合わせると、既にデモ機が設置されているということでしたので、M氏とO氏を誘って訪問してきました。



併せて DMR-UBZ1 の BPODCH 再生に関して LAN 系統のノイズ対策が有効であったことから、テクニクスリスニングルームの LAN 系統の構成はどのようになっているか調べることも目的としました。

本リスニングルームの試聴機器は以下のとおりです。

1. リファレンスクラス R1 Series

- ・ステレオパワーアンプ 「SE-R1」
- ・ネットワークオーディオコントロールプレーヤー 「SU-R1」
- ・スピーカーシステム 「SB-R1」
- ・ダイレクトドライブ ターンテーブルシステム 「SL-1000R」

2. グランドクラス

- ・プリメインアンプ 「SU-G700」
- ・スピーカーシステム 「SB-G90」
- ・ミュージックサーバー 「ST-G30」
- ・ダイレクトドライブターンテーブルシステム 「SL-1200G」
- ・ダイレクトドライブターンテーブルシステム 「SL-1200GR」

3. オールインワンプレミアムオーディオ 「SC-C70」



<試聴経過>

試聴はカートリッジにオーディオテクニカの AT-ART1000 を、フォノイコライザーに Ortofon の EQA-555 を使用して、SL-1000R で試聴していきました。また、途中で SACD も Marantz の SA-14S1SE で試聴しました。

アナログ入力は 192KHz24bitPCM に変換されて、「SU-R1」から「SE-R1」に伝送されています。使用したカートリッジの AT-ART1000 や「SE-R1」のデジタルアンプ駆動の音質にも支配されていますので、本来の SL-1000R のポテンシャルを把握しきれないこともあります。O 氏と M 氏の持参された名盤の再生では、静寂感に富み、解像度の良い音を聴かせてくれることは確かであるという印象を持ちました。また、当方が持参したヴァイオリンの機種種の聴き比べの盤では、アマティ、ガルネリ、ストラディバリウスの音質の差を描き分けてくれました。

<まとめ>

短時間での SL-1000R の試聴で、AT-ART1000 や「SE-R1」のデジタルアンプ駆動の音質の要素もありますが、静寂感に富み、解像度の良い音を聴かせてくれました。デジタル要素の入らないシステムで SL-1000R の試聴を行う機会を得たいと思っております。

<その他>

ネットワーク構成については、ネットワークオーディオコントロールプレーヤー「SU-R1」、ミュージックサーバー「ST-G30」、オールインワンプレミアムオーディオ「SC-C70」はルーターに繋がっており、「SU-R1」からステレオパワーアンプ「SE-R1」への伝送はルーター経由でなく、直接繋がっているとのことでした。また、「SU-R1」への LAN 入力は、ノイズ対策がなされているとのことでした。なお、拙宅で使用中の DMR-UBZ1 については、おそらく「SU-R1」のような配慮はなされていないのではないかということでしたので、これまで実施してきた [DMR-UBZ1 における BPODCH の音質向上の一連の対策](#) の結果は首肯できるものであることが分りました。

以上